

RESPONSIBLE

レスポンシブル・ケア報告書

CARE 2017



Heart to Evolve
新たな進化を目指して

関西熱化学株式会社
Kansai Coke and Chemicals Co.,Ltd.

関西熱化学グループ経営理念

「人を財とし、自然を財とし、新たな価値を創造する」

人を財とし

関わる全ての「人」を財産として考え、行動します。

自然を財とし

「自然」を財産として考え、地球環境の保護、限りある資源の有効活用のため、行動します。

新たな価値を創造する

「人」「自然」の融合から、新たな価値創造へ向け、挑戦し続けます。

基本理念

「安全なくして経営なし」



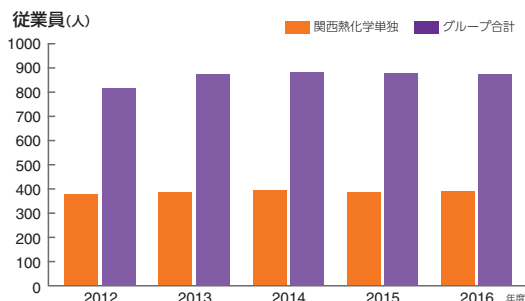
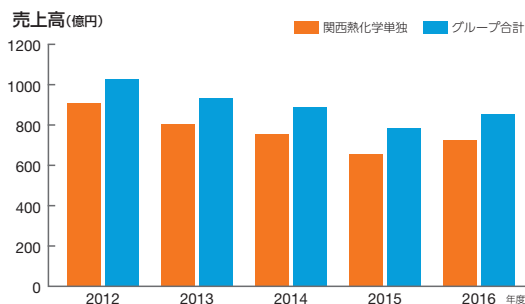
Heart to Evolve

新たな進化を目指して

関西熱化学 概要

(2017年3月31日現在)

社名	関西熱化学株式会社 Kansai Coke and Chemicals Co.,Ltd
本社	兵庫県尼崎市潮江1丁目2番6号 TEL 06-4300-5300(代表) ホームページ http://www.tkcc.co.jp
代表者	取締役社長 小林 英信 (こばやし ひでのぶ)
設立	1956年(昭和31年)8月1日
資本金	60億円
事業内容	・製鉄用コークスの製造販売 ・ガス、コールタールなどの化成品の製造販売 ほか
事業所	尼崎事業所 兵庫県尼崎市大浜町2丁目30番地 TEL 06-6416-1331 加古川工場 兵庫県加古川市金沢町7番地 TEL 079-436-1500 研究開発センター 兵庫県尼崎市大浜町2丁目30番地 TEL 06-6416-5951
グループ会社	株式会社MCエバテック 大阪化成株式会社 尼崎ユーティリティサービス株式会社



CONTENTS

関西熱化学概要	1	コンプライアンスへの取組み	12
ごあいさつ	2	安全への取組み	13
特集「2016年度無災害を達成」	3	品質・化学品安全への取組み	15
RC基本方針・RC推進体制	7	RC活動トピックス	16
2016年度目標と実績	7	情報セキュリティへの取組み	17
リスク管理の取組み	8	社会とのコミュニケーション	19
環境への取組み	9	グループ会社のRC活動への取組み	21

対象期間／対象範囲

この報告書は2017年度版として、2016年4月1日から2017年3月31日までの関西熱化学および関西熱化学グループのRC活動に関する活動実績に基づいて作成しました。

レスポンシブル・ケア (RC) とは、企業が自主的に「環境保全」「保安防災」「労働安全衛生」「化学品・製品安全」の取り組みを行い、その成果を公表して社会とのコミュニケーションを図る活動です。関西熱化学は、日本レスポンシブル・ケア協議会 (JRCC) に参加し、RC活動を展開しています。

ごあいさつ

「レスポンシブル・ケア (RC) 報告書2017」発刊にあたり一言
ご挨拶申し上げます。

当社は、昨年創立60周年を迎えました。この記念の年に関西
熱化学グループ (従業員数 約900人) は、年度無災害 (休業・
不休業労災ゼロ) を達成しました。合わせて、保安事故ゼロ、環
境重大トラブルゼロも達成することができました。さらに、加古川
工場の安全衛生協力会も年度無災害を達成しました。これは、従
業員一人ひとりが「レスポンシブル (責任を負う) たれ」とのRC精神
に基づいた活動を実践した成果であると評価しております。

特に、昨年度は、各職場の弱みを認識した活動を軸として取り
進めたことが、一定の成果に繋がったのではないかと考えています。
今年度も昨年度の活動方針を踏襲し、さらに高みを目指してい
きます。

さて、当社グループを取り巻く経営環境は、年々厳しさを増す
とともに、大きく変貌を遂げています。このような環境だからこそ、
RC活動を基盤とし、安全と安定生産を積み上げていくことが重要
であると考えています。これを継続することが、中期ビジョンとして
掲げた「真に強い関西熱化学グループ構築」だと確信しています。

今年度は、従業員一人ひとりが自分の仕事に誇りを持ち、自職
場からは絶対に災害・事故を発生させないという強い気持ちで業
務を遂行していきます。そして、「明るく、元気に、前向きに」の
精神で、目の前の課題を着実に解決し、成果を挙げていきます。

本レポートは、当社グループ全体の2016年度のRC活動につい
てご紹介しています。当社グループの考え方や取り組みについて
ご理解いただくとともに、今後一層のご支援と忌憚のないご意見
を賜れば幸いです。

ご安全に



2017年9月
関西熱化学株式会社
取締役社長

小林 英信

2016年度無災害を達成!

関西熱化学グループ全場所で年度無災害

(休業労災『ゼロ』、不休業労災『ゼロ』)を達成しました。

加古川工場「SAY-F」

2016年度は、休業労災・不休業労災はなかったものの、重大な災害に繋がりにかぬない軽微労災が発生しており、引き続き安全基盤の強化に向けた取り組みを実践し、レベルアップを図っていくため、2015年度から開始した「SAY-F活動」を継続しています。

2016年度の安全活動は以下の3つを柱に取り組み、積極的に推進してきました。

- リスクアセスメント手法を用いた設備の安全化
- 作業に対して、どんな危険が潜んでいるかを抽出し、その場で対応策を考え・実行する危険予知活動
- 作業で危ないと感じた情報を仲間で共有して対策を実行するヒヤリハット活動

その中でも危険予知活動については、外部講師を招いて、管理監督者を対象とした1日コース基礎KY研修を実施するとともに、各部署においては、班単位でKYTを行い、作業前には個人で行う危険予知能力の向上に努めています。

これらの活動に、2015年度から開始した過去災害の風化防止と再発防止対策の有効性を確認する活動に加え、2016年度は、未然防止対策も加えて計画的に行いました。その結果を工場安全衛生・防災委員会で報告し、各職場への周知とフォローアップを図ってきました。

● SAY-F活動

加古川工場では、グループ会社、安全衛生協力会と一体で、安全基盤強化の第一歩として「まずはここから始めよう～皆がすぐに来ること」をキャッチフレーズに活動を展開しています。



- S : 正しい服装(躰)
- A : 明るい挨拶
- Y : 横断歩道での指差呼称
- F : ファーストステップ

● KYT(危険予知訓練)

危険を予知して安全先取りのため、感受性を鋭くする・集中力を高めるKYTを継続して実施しています。



● 過去災害・保安事故の再発防止対策有効性確認

環境保安部長主導のもと、過去災害や事故の発生状況、原因と再発防止対策を振り返り(共有)、現状での適合性を現地・帳票類で確認・評価しています。



協力会社(安全衛生協力会)との「RC対話」の場では、各社の活動報告をもとに工場メンバーとの意見交換を行い、改善意見等を活かし安全活動レベルの向上を図っています。「安全は全てに優先する」ことを加古川工場の中で働く全ての方が理解し、一人ひとりが安全作業を遂行しています。

ご安全に!

加古川工場長 岡井 務

安全衛生協力会

12社の協力会社で構成する加古川工場安全衛生協力会は、良好なコミュニケーションを基盤とした、安全活動の共有と更なる向上を目指しています。

安全パトロールは、各社所長で班編成して実施し、会社間の垣根を越えた指導により安全工事・作業の実行に努めています。



尼崎事業所「笑門来福」

関西熱化学尼崎事業所では『笑門来福』をモットーにRC活動や活力ある職場作りを推進し、『笑う門には福が来る』事業所の実現に向けて、安全・安心な事業所、働きがいのある事業所・職場作りに取り組んでいます。



● 安全・安心な事業所

尼崎地区には、関西熱化学、MCエバテック社、尼崎ユーティリティサービス社の3つの会社があり、各社で安全活動を実施しています。関西熱化学尼崎事業所は、各社の連携を図り尼崎事業所地区としての一体感ある活動を醸成するために、『安全防災環境会議』を開催し、各社・各部署の安全活動を紹介して相互啓発を図りました。また、パトロールでは、別の会社の人々が、いつもと異なる視点で現場を見て、保安・安全面や環境面での気づきを話し合い、有意義なパトロールとなりました。

さらに、尼崎事業所では『交通事故の防止』を図っています。2016年度は尼崎南警察署交通課長による交通講演会を開催しました。また、春と秋の全国交通安全運動に合わせて、

構内の交通ルール遵守の声かけを事業所内の3社、テナント各社と合同で実施し、ドライバーへの注意喚起を行いました。

● 働きがいのある事業所・職場作り

尼崎事業所では、『働きがいのある職場づくり』のために各種懇親行事を企画しました。この活動は単に親睦を図っただけでなく、事業所内の3つの会社の交流や仕事への意欲にもつながり、結果として、2016年度の各社の無災害達成にも良い効果をもたらしたと思います。

行事の内容は、グランドゴルフ、輪投げ、運動会などのスポーツ行事、さらに餅つきやトランプゲームなどのレクリエーション行事を開催し、多くの従業員の方から好評を得ました。



これからも働きがいのある職場の形成のために各種行事の充実を図っていききたいと思います。

ご安全に!

尼崎事業所長 池田道弘

研究開発センター「謙虚な誇りと自信」

2016年度はグループ全体で年度無災害を達成し、研究開発センターは10年連続無災害を達成いたしました。これは、所員全員が高いレベルで安全を意識し行動している結果であり、とても誇らしく思います。

研究開発センターには工場のような大きな設備はありませんが、作業条件が頻繁に変わる、取り扱いが難しい高度な装置が多い、一人作業が多いなどの特徴があります。

したがって、災害を起こさないためには、所員各人が仕事の目的とその方法の意味を理解し、確実に実行することが求められます。常に目的と方法の



関係を理解することにより、自分の行動の結果を予測して行動する感性が養われると考えています。

「謙虚な誇りと自信を持って、何をやるべきか具体的に発信し実現する」これが、我々の行動指針であり、毎朝、全員で唱和しています。自分の仕事に責任を持つ、安全に手を抜かない、周りの仲間のことを考える、こういうことをやるべきだと志向する誇りとそれを具体的に実現する自信を持ちたいと考えています。

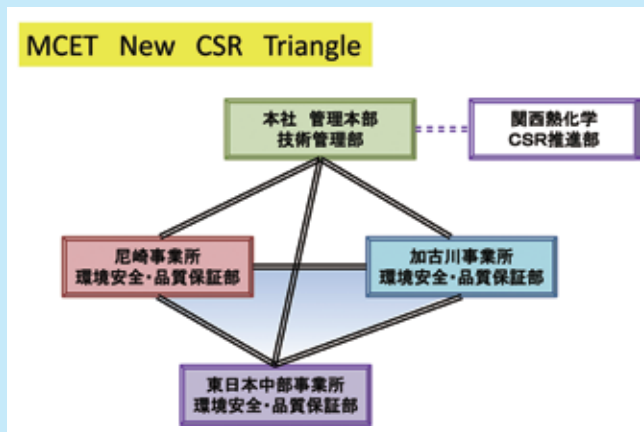
我々は各人が謙虚な誇りと自信を持つことで、楽しくやりがいを持って仕事に取り組みます。その結果は次の10年の無災害に繋がると考えています。

ご安全に!

研究開発センター所長 安丸純一

(株)MCエバテック 「CSR Triangle」

弊社は、2014年 6月からCSR Triangleを構築し、各エリアCSR担当者のレベルとベクトルを合わせ、一体運営することで2年連続無災害を継続しています。



● 尼崎事業所

『笑門来福』を事業所のモットーに掲げ、笑う門には福が来る事業所・職場作りを目指しています。その達成のポイントは安全・安心な職場をつくる事です。重要なのは、職制と第一線の作業者が共に、安全な職場への強い思いを共有している事です。

その思いの下、

- ①職制と作業者が共に職場パトロールを実施して、不具合を摘出し改善をする活動、
- ②作業の工程毎にリスクアセスメントを実施し、リスクが高いと診断された作業の改善を図る活動、
- ③4M(設備、材料、作業方法、人)の変更を予め申請し安全性評価を実施する活動

などを愚直に実施した成果として、無災害が達成できたと思います。



● 加古川事業所

安全には、特効薬なしとの認識で、実施事項を管理計画に落とし込んで着実に実施しています。

そういった中で、2016年度は8月下旬にトラブルが続発したために、約2ヶ月間、強化期間を設け活動しました。そこでは、当日の作業計画やKYを確かなものにするために始業ミーティングを重視し、安全に対する考えを全員が輪番でスピーチし意識の高揚を図りました。

また、部長と環安品証部員が全職場の始業ミーティングに参加し、現場活動の実態をより深く知る機会ともなり、好事例は水平展開することができました。この試みは、「5ゲン主義による弱みの発掘・自覚」という本年度の活動にも繋がっています。



● 東日本・中部事業所

関西熱化学グループの基本理念である「安全なくして経営なし」をRC活動の源としています。日々のKY・HH活動、職場パトロール、交通安全立哨、2015年度からの相互安全査察、そして2016年度からスタートした小集団活動などが無災害達成に繋がったと思います。活動にあたっては各施策の意義や目的をみなさんにしっかり伝え、理解と納得を得ながら取り組んでおり、このような努力により個々人の安全意識レベル、そして職場全体の安全へのモチベーションを少しずつ向上させることができたと思います。今後も災害ゼロが基本であるとの意識を維持継続して参ります。



ご安全に!

(株)MCエバテック 社長 小山敏之

大阪化成(株)「CAS運動」

弊社は、2012年 5月25日から2016年度末まで、約5年間にわたり無災害を継続しています。この間に、「ものづくり力」を向上させる事を課題に、事業展開を行ってきました。

「ものづくり」の原点が「安全」であることを胸に、全員一丸となって、弊社で働く誰もが、決して怪我をして痛い想いをすることがないように日々の業務にあたっています。

弊社の基本理念は、「お客様に 安全・安信・衛生をお届けする事」であり、その我々が、安全文化を高めないわけには参りません。

そして、昨年度も無災害を達成することができました。関西熱化学グループの一企業として、その方針に則り、風通しの良い職場づくり、協力会の方々も含めた全員が参加する職場安全パトロールやHH活動など、地道な活動を愚直に継続してきたことが、無災害達成に繋がっていると思います。



まだまだ弱点を克服できたわけではなく、2015年度から「CAS」運動のネーミングで、原点に立ち返って、「C」コミュニケーション、「A」あいさつ、「S」清掃と極めて基本的で最も大切な活動を全員で展開しています。絶えず「マンネリ化、形骸化」に陥らないように工夫を織り込み、無災害の継続ができるように皆で知恵を出しながら努力して参りたいと思います。

特に今年から、我々の会社の規模は小さいが、「一流企業でありたい!」一流企業とは何なのかを、常に考えながら行動するようにも皆に呼びかけています。

ご安全に! 大阪化成(株) 社長 石川邦夫

尼崎ユーティリティサービス(株)「安全・安定操業の継続」

弊社は、2016年度末で8,339日(22年10ヶ月)無災害で、安全・安定操業を継続しています。

2016年度のRC諸活動の中で、

- ① 関西熱化学グループとして作業や工事で守るべきことを集約した冊子『安全基本10則』を作業や工事安全打ち合わせの際に参照する活動
- ② 工事関連3者(製造課、技術課、工事受託会社)が毎週金曜日に情報を共有する『週末ミーティング』を実施して、設備の不具合や次週以降の工事計画を確認、計画的な工事を実施したこと
- ③ 設備老朽化の診断を地道に実施し、不具合があれば修理するとともに点検周期を見直す活動

などを実施したことが、無災害の達成に有効であったと考えています。

本年度以降、会社設立時より勤務しているベテラン社員が順次退職します。その対策として、1年に1度しか実施しない作業や難易度が高い作業など50項目を抽出して、これらの作業



をビデオ撮影し、作業手順や要点を可視化した作業標準を作成しています。

今後、安全な職場を継続するためには、新人の育成が重要であると考えます。

ご安全に! 尼崎ユーティリティサービス(株) 社長 池田道弘

RC基本方針・RC推進体制

RC基本方針

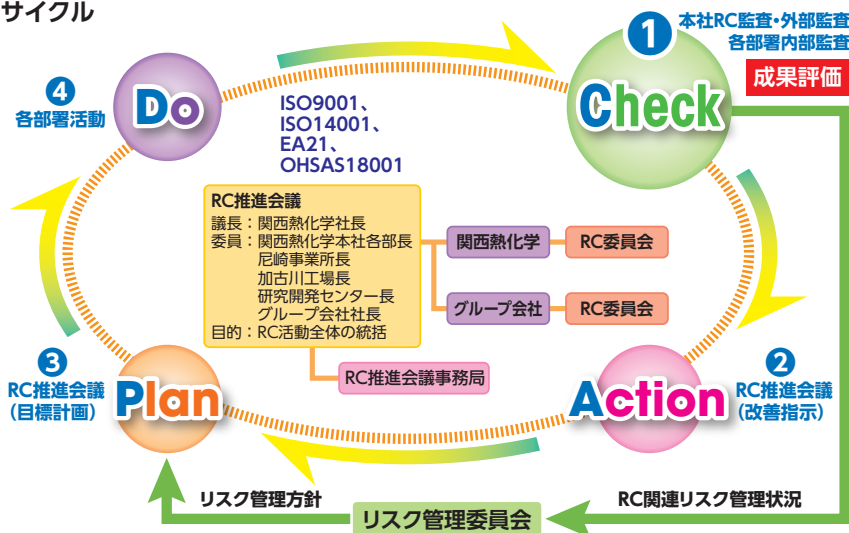
- ① 「環境・安全」の確保を、企業存立の必須要件として企業活動を行う。
- ② 無事故・無災害の操業を続けることにより、従業員と地域社会の安全を確保する。
- ③ 製品の開発から廃棄に至るまで、製品の全ライフサイクルにおいて、環境の保護および製品の安全に配慮する。
- ④ お客様が満足し、かつ、安心して使用できる製品・サービスを提供する。
- ⑤ 法令等の遵守はもとより、この基本方針の重要性を認識し、自らの責任を自覚した行動に努め、社会からの信頼向上を図る。

RC推進体制

関西熱化学およびグループ会社の代表から組織されるRC推進会議が、環境保全、保安防災、労働安全衛生、化学品安全・製品品質の推進に関する基本事項を定め、グループ全体のRC活動を統括します。RC推進会議では、当該年度のRC活動の成果およびリスク管理委員会にて決定されるグループのリスク管理方針に基づいて、次年度のグループRC活動方針、RC目標およびRC活動計画が承認され、また計画の全社的な進捗管理が行われます。

このRC推進会議のもとで、各部署に組織されているRC委員会が具体的な活動を推進します。RC活動は主に、本社RC監査、RCパトロール、内部監査および外部監査によってチェックされることでCAPDサイクルが確保されています。

RC推進体制とC・A・P・Dサイクル



2016年度目標と実績

「責任ある自主的な行動により社会からの信頼を受ける会社」を目指し、「環境重大トラブルゼロ、保安事故ゼロ、労働災害ゼロ、品質重大トラブルゼロ」等を目標に活動しています。

2016年度目標と実績

項目		目標	2016年度実績	掲載ページ
環境保全	環境管理	環境重大トラブルゼロ	環境重大トラブルゼロ	—
	CO ₂ 削減	2015年度実績維持	2015年度対比 6%増	10
	有害物質排出抑制	ベンゼン環境基準達成	環境基準達成	10
	廃棄物削減・リサイクル	リサイクル率99%以上	99.3% (建設系を除く)	10
安全衛生防災	防災	保安事故ゼロ	保安事故ゼロ	13
		防災訓練の強化	総合防災訓練等緊急時対応訓練実施	
	労働安全衛生	休業度数率ゼロ	休業度数率ゼロ	14
		過去トラブル再発防止策の作りこみ	事故、災害の情報データベースの活用、再発防止検討会実施	14
	事故・トラブル未然防止への取り組み	作業におけるリスクアセスメント、危険予知の実施	14	
	現場第一線のプロとしての意識改革	RC大会開催	16	
品質・化学品安全	品質	品質重大トラブルゼロ	品質重大トラブル(生産重大トラブル)3件	—
共通	コンプライアンス	コンプライアンスの意識向上	従業員意識調査のコンプライアンス関連項目にて、コンプライアンス意識レベルに問題がないことを確認	12
	社会とのコミュニケーション	社会貢献	地域清掃、地域行事への参画、スポーツ振興など	19
	RCのグループ会社への展開	グループマスタープランに沿ったRC活動の実施	グループ会社毎の個別活動の展開	21

リスク管理の取組み

リスク管理

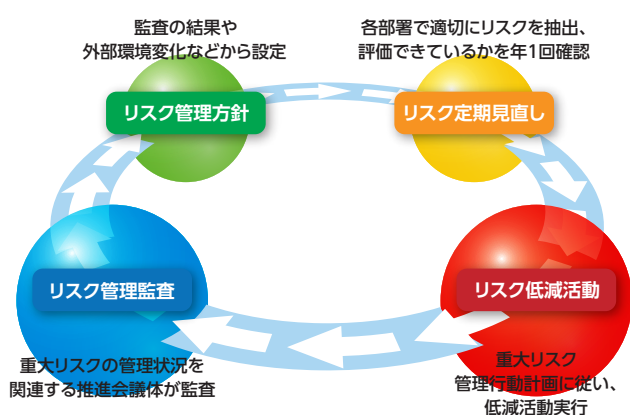
関西熱化学グループでは、リスク管理を経営の根幹を成すものと位置づけています。

事業のリスクは、自然災害をはじめ、保安事故や環境トラブルの発生や対応、新型感染症の大流行や集団食中毒による労働力の喪失など多岐にわたります。各部署のリスクを影響度と頻度の面で定量的に把握し、適切に管理することで事業や組織が、クライシス（危機的状況、非常事態）の発生によって瓦解しないように、リスク管理という枠組みにより、できる限り未然に保護しています。

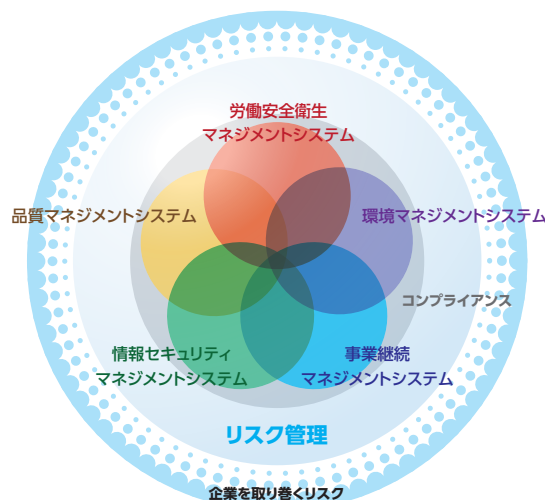
各部署で、年度のリスク管理方針に従って自部署の事業リスクの見直し（抽出、評価、対応策の策定）を行い、低減

活動を実行します。特に重大なリスクについては、リスク管理委員会にて対策の実行状況を管理しています。各部署で抽出されたリスクの評価や対策の妥当性については、RCに関連するリスクについてはRC推進会議、コンプライアンス（P12）に関連するリスクについてはコンプライアンス推進会議、情報セキュリティ（P17）に関連するリスクについては情報セキュリティ推進会議など、リスクの種類ごとに関連する推進会議体により監査等により確認され、その結果に基づき、リスク管理委員会にて次年度のリスク管理方針が決定されます。

リスク管理活動サイクル



関西熱化学グループリスク管理活動の考え方



事業継続計画（BCP）

関西熱化学グループでは、地震・津波などの大規模災害の発生および、新型インフルエンザ等の致死率の高い感染症の大流行に対して適切な初動対応を行うことで事業活動への影響を最小限に留めるための事業継続計画（BCP：Business Continuity Plan）の構築と運用に努めています。2009年度のA/H1N1型インフルエンザ流行時にはBCPを発動させ、適切に運用することで、従業員の罹患や社内での感

染拡大を最小限に留めることができました。

今後30年以内の発生確率が70%と予想されている南海トラフ巨大地震に対しては、内閣府中央防災会議により公表された「南海トラフ巨大地震モデル検討会」による想定震度や津波高さ、浸水範囲等の予測に基づいて地震・津波対応BCPを見直すことで、従業員の安全を確保していきます。

関西熱化学グループ マネジメントシステム認証取得状況

規格	認証場所
ISO9001	関西熱化学（株） 加古川工場 （株）MCエバテック ・炭素材事業 ・精密洗浄事業 ・ソフトウェア事業 ・アクアクララ六甲事業 ・尼崎分析センター ・加古川分析センター ・東日本・中部事業所
	大阪化成（株） 尼崎ユーティリティサービス（株）
	ISO14001
エコアクション21（EA21）	関西熱化学（株） 本社、研究開発センター （株）MCエバテック 本社
OHSAS18001	関西熱化学（株） 加古川工場 （株）MCエバテック ・尼崎事業所 ・加古川事業所

環境への取組み

水質の汚濁防止

排水に関するリスク低減活動

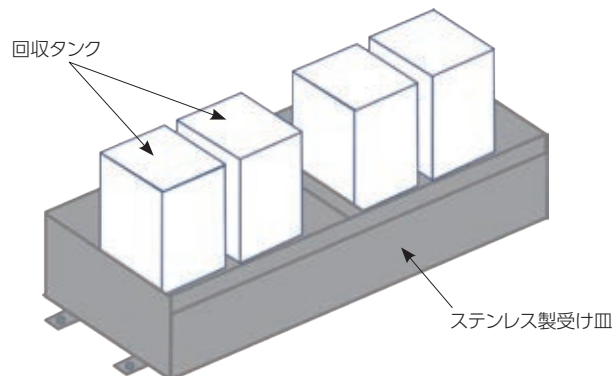
尼崎事業所内にあるグループ会社では、精密洗浄事業を行っており、洗浄工程で重金属などの有害物質を多く含んだ洗浄廃液が発生します。この洗浄廃液は、回収タンクに集められ、産業廃棄物として処理しています。この回収タンクからの漏えいを防止するため、下部にステンレス製の受け皿を設けるとともに、産業廃棄物置場（回収タンク置場）には防液堤を設置しています。さらに、この防液堤は外部への廃液のしみ出しを防ぐため、全周に渡って防水加工が施され、ステンレス板により補強されています。

一方、仕上げ洗浄工程で発生する洗浄廃液については、工程水溝を介して排水処理設備に送られ、適正に処理されています。しかし、排水処理設備のトラブル時あるいは近年の集中豪雨時には、洗浄廃液が雨水溝側にオーバーフローし、環境トラブルにつながるリスクがありました。

そこで、2014年度から3年間の計画で、雨水溝と工程水溝との分離（暗渠化）や排水ルートの見直しを順次実施してきました。2016年度には、雨水溝と工程水溝の完全分離が完了し、環境リスクが大幅に低減しました。

今後も引き続き、環境トラブルにつながるリスクの低減・撲滅活動を進めてまいります。

回収タンク下部 ステンレス製受け皿



環境意識向上の取組み

環境トラブル(排水)事例研修の開催

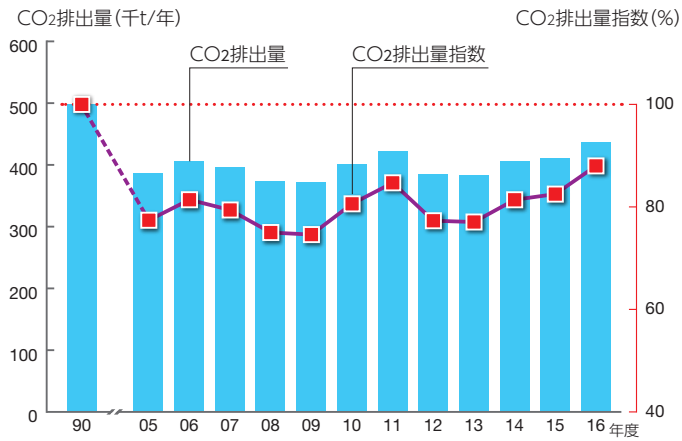
関西熱化学グループの排水管理レベルの向上を目的に、9月7日に兵庫県の環境局から講師2名を尼崎事業所にお招きし、「公共水域への有害物の漏えい事例の原因と対策概要について」というテーマで事例研修会を開催しました。関西熱化学グループ内から多くの参加者がありました。

講師からは、兵庫県内で実際に発生した事例を生々しく説明され、参加者一同、環境管理の重要性を再認識するとともに、危機意識の向上を図ることができました。また、講演後には、自分達の職場の排水管理に役立てようと、活発な質疑応答が行われ、大変有意義な研修となりました。

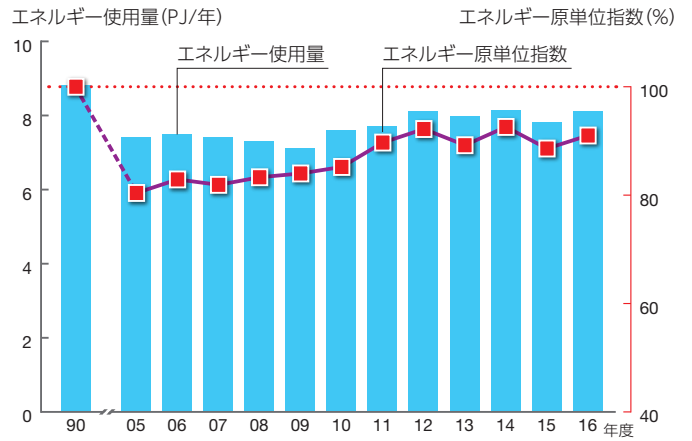


環境トラブル事例研修会

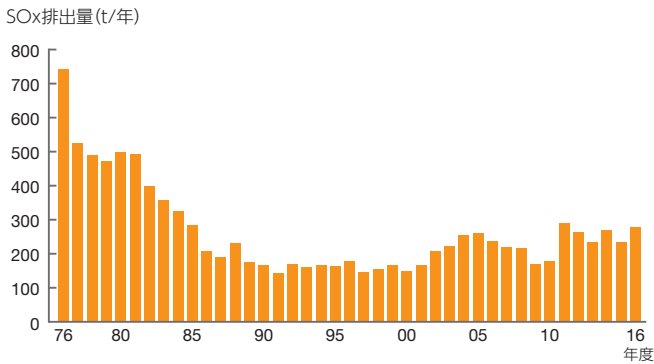
CO₂排出量およびCO₂排出量指数推移 (加古川工場 試算値)



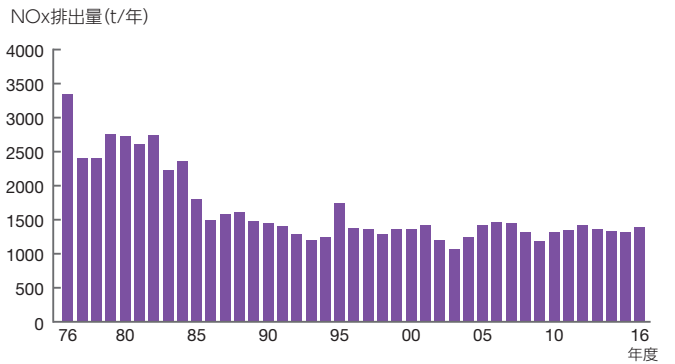
エネルギー使用量およびエネルギー原単位指数推移 (加古川工場 試算値)



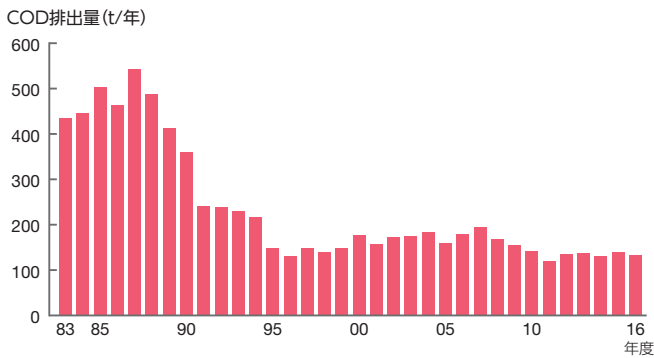
SOx排出量推移 (全社)



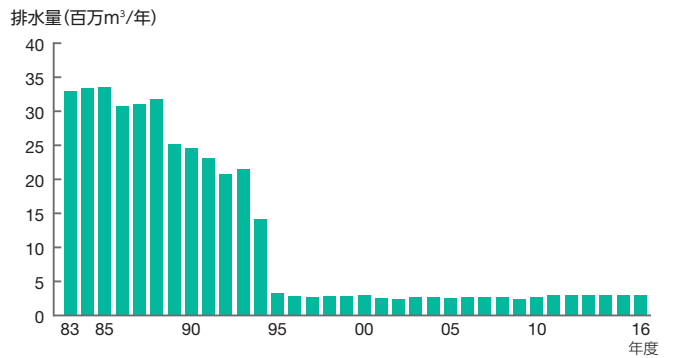
NOx排出量推移 (全社)



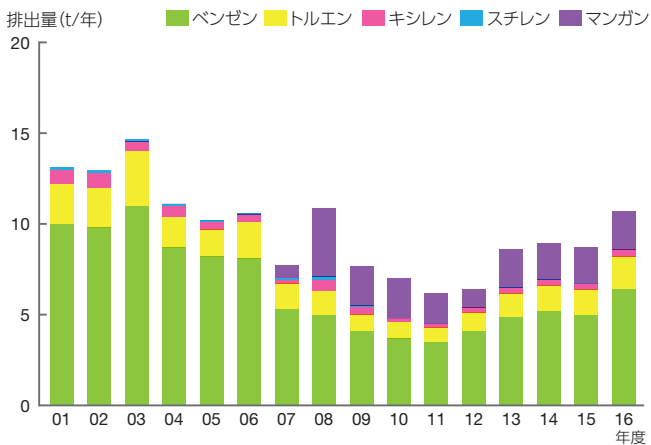
COD排出量推移 (全社)



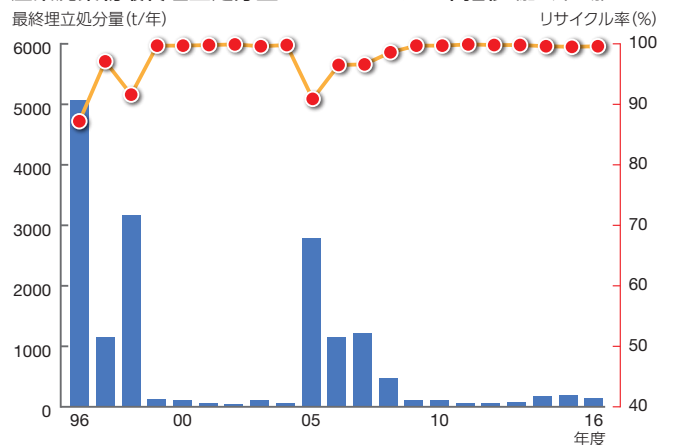
排水量推移 (全社)



PRTR法対象物質排出量推移 (加古川工場)

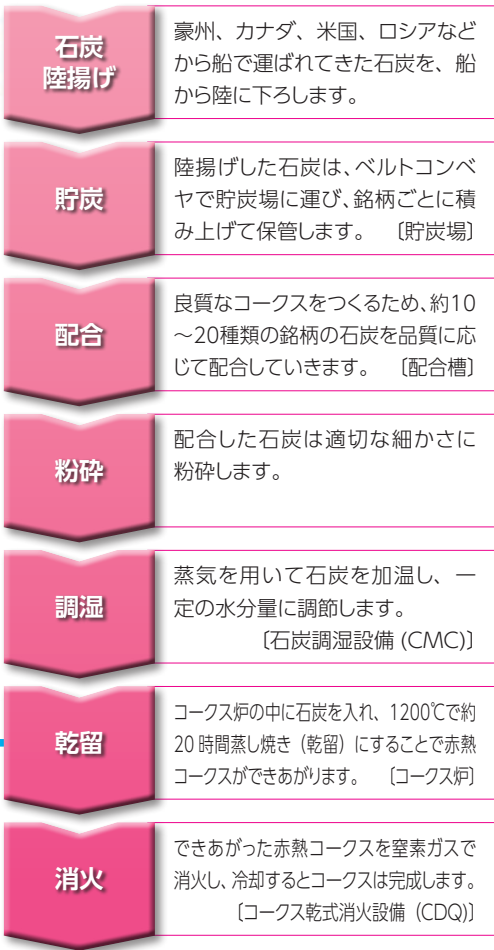


産業廃棄物最終埋立処分量およびリサイクル率推移 (加古川工場)



※2010年度以降は非建設系産業廃棄物を集計

コークス製造プロセスとの関係



INPUT

原料石炭	約3,210千t
エネルギー消費量	約8.00PJ
工水・上水	約2,080千m ³
海水	約34百万m ³

OUTPUT

主製品

コークス	約2,340千t
コークス炉ガス	約990百万Nm ³
コールタール	約110千t
粗軽油	約36千t
液体アンモニア	約7千t
硫酸	約15千t
蒸気	約1,210千t

大気質

SOx	約270t
NOx	約1,380t
CO ₂	約430千t (試算値)
PRTR物質	約8.7t

水質

排水	約2,480千m ³
COD	約130t
PRTR物質	約2.1t

廃棄物質

外部最終埋立処分量
約130t (非建設系)

発生ガス

コークス

完成したコークスはベルトコンベヤで神戸製鋼所へ搬送します。



蒸気

赤熱コークスから熱エネルギーを蒸気に代え、発電に有効利用します。



コールタール

コールタールは、炭素繊維の原料になります。炭素繊維はテニスのラケットやつりざお等の素材、航空機やオートバイなどの産業用材料に使われています。



硫酸

硫酸は、工業用品、医薬品、肥料などの原料、鉛蓄電池などの電解液に用いられます。



液体アンモニア

液体になったアンモニアは回収し、脱硝剤や医薬品の化学原料に利用されます。



粗軽油

粗軽油はプラスチックなどの化学原料に利用されます。

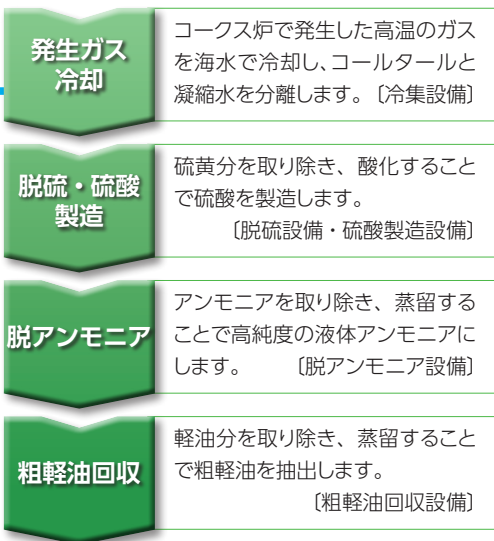


コークス炉精製ガス

精製したコークス炉ガスは、コークス炉や神戸製鋼所の燃料として用途先に供給しています。



凝縮水



処理水(放流)

コンプライアンスへの取組み

コンプライアンスは、企業の社会的責任の一つであり、経営の根幹に係わる課題であると認識しています。関西熱化学グループでは、「コンプライアンス」を単なる法令の遵守ではなく、「法令はもとより、社会通念や企業倫理といった社会的ルールを遵守すること」としてより広い意味で位置づけ、その確保と推進を図っています。

コンプライアンス推進プログラム

関西熱化学グループは、1. 自覚・責任、2. 公正・公平・誠実、3. 遵法精神、4. 節度、5. 透明性・開放性を「関西熱化学グループ企業倫理憲章」として掲げ、常に高い倫理観と社会的良識をもって行動し、社会から信頼される企業グループを目指します。

グループを目指します。

「関西熱化学グループ・コンプライアンス行動規範」「相談・報告制度」など、コンプライアンス推進プログラムを整備し、その適切な運用・管理に努めています。

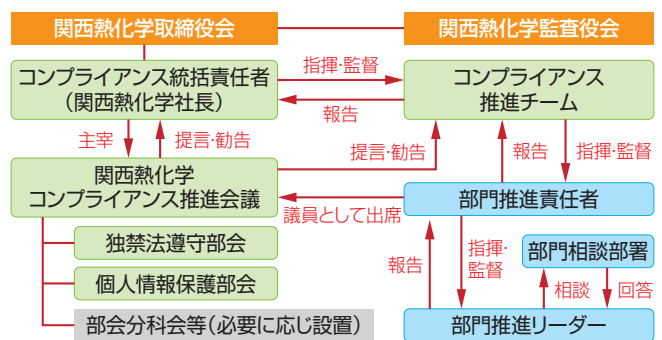
コンプライアンス推進体制

関西熱化学取締役社長をコンプライアンス統括責任者とし、統括責任者を議長とするコンプライアンス推進会議を設置しています。

コンプライアンス推進会議の事務局である推進チームは、グループ各社が自らコンプライアンス上の問題がないかをモニタリングするシステムの運用状況を確認します。また、コンプライアンスの啓発およびホットラインの運用を行うほか、グループ全体の相談窓口にもなっています。

さらに、各部署長およびグループ会社社長を部門推進責任者として、各部門に部門推進リーダーを置き、日々のコンプライアンスの推進・徹底に取り組んでいます。

関西熱化学グループのコンプライアンス推進体制



コンプライアンス推進活動

コンプライアンスの実践には、自らが守るという意識と、守るべき法令やルールについての知識の両方が必要です。

関西熱化学グループでは、コンプライアンスの推進に不可欠である「風通しのよい職場」づくりを目指した管理者向け研修と部下への伝達教育や、情報端末を利用した全従業員対象のコンプライアンス自主研修を行うほか、下請法や独禁法、輸出管理についての教育や内部監査を行うことで、意識と知識の両面からコンプライアンスの推進に努めています。

さらに、毎年実施している従業員意識調査のコンプライアンスに関連する部分については、調査結果を推進チームから各部署にフィードバックしてディスカッションを行い、コンプライアンスの推進に活かしています。

今後とも、コンプライアンス意識を常に高いレベルに保つ取り組みを継続し、コンプライアンスを基盤とした事業活動を継続します。

また、セクシャルハラスメント、パワーハラスメント、並びにコンプライアンスに関する相談窓口を設け、これらの迅速な対応に努めています。また、各窓口の連絡先を記載したカードを作成し、従業員一人ひとりに配布することで、早期の情報入手と対応を心掛けています。



人権啓発研修

安全への取組み

保安防災

各職場におけるリスクアセスメント活動やパトロール、ヒヤリハット活動などにより、職場の潜在的な危険や有害な要因を見つけ出し、設備改善等でそれらを低減・除去する活動を展開して、保安事故および労働災害などの未然防止を図っています。

保安事故防止への取組み

尼崎事業所および加古川工場では、毎月のパトロール時に重点テーマを設定し、設備の安全状態の確認と潜在的な問題点の抽出活動を行っています。この抽出された問題点については、保安事故発生を防止するための設備改善や万が一保安事故が発生した場合の早期発見および被害の拡大



尼崎事業所 RCパトロール

防止のための設備強化に反映させています。今後とも防災体制の整備を継続的に充実させ、保安事故防止を図っていきます。

加古川工場では、ベルトコンベヤ火災発生を反省し、設備管理面、運転管理面の強化に取り組んでいます。



加古川工場 防災訓練

保安防災訓練の実施

高圧ガス設備の防災訓練をはじめとして、工場総合防災訓練、隣接する神戸製鋼所加古川製鉄所との合同防災訓練、播磨地域特別防災区域加古川播磨協議会等の連携による防災訓練などの保安防災訓練を実施しています。

また、万が一保安事故が発生した際に、スムーズな消火活動とそれに伴う二次災害防止を確実にするために、日頃から消防操法訓練や放水訓練を実施しています。あわせて消防操法大会等も大切な訓練機会と考え積極的に参加しています。



MCエバテック加古川事業所 放水訓練

防災意識向上の取組み

尼崎事業所では地震・津波発生の緊急事態に役立てることを目的に、より実践的な防災訓練に取り組んでいます。具体的には地震発生直後の自分の身を守るための行動(机の下に避難)、その後の避難場所への移動(場所と経路)、全員の無事確認(点呼と連絡ルート)について詳細に取り決め訓練しています。今後も防災意識の向上に取り組んでいきます。



尼崎事業所 防災訓練

また、尼崎事業所と加古川工場では、緊急地震速報システムを導入しています。これは、初期微動(P波)と主震動(S波)の速度の差を利用して強い揺れが来る前に地震発生を知らせるもので、予め地震に対する身構えが出来るため、災害の軽減に繋がっています。

緊急地震速報システムの概要



初期微動(P波)と主震動(S波)の速度の差を利用して強い揺れが来る前に地震発生を知らせる
⇒地震に対する身構えが出来れば死傷軽減につながる

(出展:気象庁ホームページ)

労働安全

関西熱化学グループでは全従業員が労働安全衛生活動に参加し、労働安全衛生レベルの向上に取り組み、労働災害ゼロの達成を目指して活動しています。

労働災害防止への取り組み

2016年度は職場ごとに「弱み」をしっかりと認識し、活動項目を設定することを活動方針に掲げ、下記の3項目の重点項目を定めて活動してきました。

- ①過去トラブルの再発防止策の作りこみ
- ②事故・トラブル未然防止への取り組み
- ③現場第一線のプロとしての意識改革

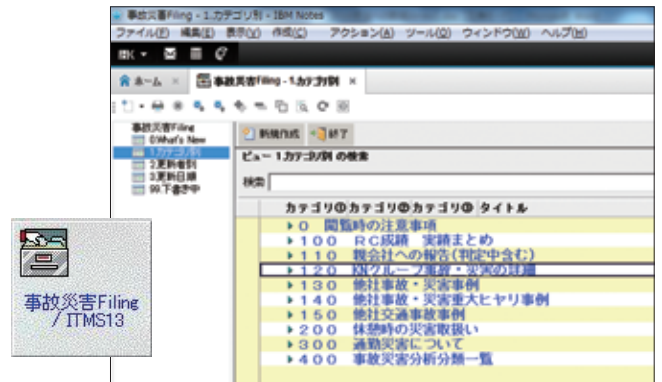
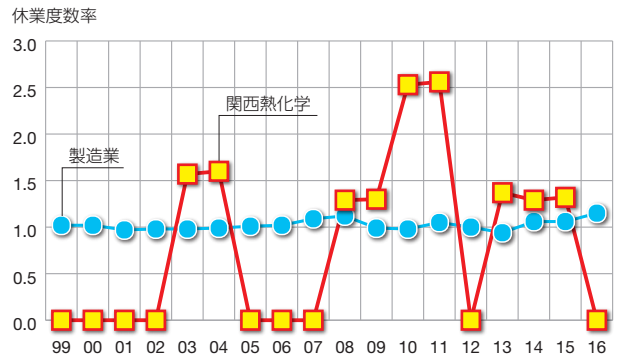
職場ごとの弱みとは、管理者が目指すあるべき姿と現状のギャップや、第一線で作業されている方々が感じる作業のやり難さ等から見つけた課題です。特に労働災害、トラブルあるいはヒヤリは、第一線で作業されている場所で起きているので、実作業で感じる仕事の「やり難さ」を改善することが労働災害防止に繋がると考え、これらの抽出とその対策を進めてきました。

その結果、2016年度は休業労災、不休業労災ゼロを達成し、一応の成果を手取ることができました。

しかし、軽微労災は8件発生しており、まだまだ改善の余地があると考えています。

そこで、関西熱化学グループで過去に発生した事故や災害の情報を種類毎にデータベースに纏めました。各職場の教育時に事例として紹介したり、再発防止策検討時の参考にしたり、同種災害を防止するためのツールとして活用しています。

休業度数率推移 (100万時間当たりの休業者数)



事故、災害の情報データベース

衛生

関西熱化学グループでは「社員は人財(たから)」であり、社員が健康を損なうことは会社にとって損失と捉え、「こころとからだ」の健康管理の充実をめざした施策を積極的に推進しています。

フィジカルヘルスケア

各職場の作業環境測定結果に基づき局所排気装置の設置や保護具の使用などの作業環境の改善や分煙化を推進しています。さらに生活習慣病の予防のために特定健康診査(メタボ健診)・特定保健指導を行ってきましたが、2014年度からはその予備軍についても栄養士による個別指導を実施しました。また健康診断の有所見者に対しては、保健師によるフォロー面談を強化しています。

これらの活動に加え、衛生講演会や外部のトレーナーによる健康づくり教室を開催することにより健康づくりを支援しています。

メンタルヘルスケア

メンタル面では、メンタルヘルスケアの重要性の認識向上や職場での過度なストレス発生の予防のために、経営層、管理監督者、一般従業員への研修を実施しています。さらに、社外専門家によるケア体制を確立し関西熱化学グループの従業員の誰でもが相談できる窓口を設けて、メンタル不調の防止を図っています。



職業性ストレス簡易調査票

また、厚生労働省の「職業性ストレス簡易調査票」を用い、各自が職場におけるストレスチェックを行い、必要に応じて職場の改善活動を進め、快適な職場づくりに繋がっています。

職場の改善にあたっては、以下の6つのステップで取り組んでいます。

- ①職場環境改善研修を行い、活動手順を理解する。
- ②アクションリーダーを選任し、職場の問題点を抽出する。
- ③管理監督者へ改善計画を提出する。
- ④各職場にて改善計画に従い取り進める。
- ⑤報告会による好事例の共有化と他職場からの助言によって、改善を加速させる。
- ⑥評価とフォローアップを実施する。

品質・化学品安全への取組み

品質への取組み

加古川工場では、国際標準化機構 (ISO) が発行する国際規格であるISO9001に基づく品質マネジメントシステムを構築し、製品の品質管理に努めています。

製品であるコークス、コークス炉ガス、化成品について、顧客の求める品質をつくり込むため、原料炭の適切な配合や操業技術、設備管理技術の改善を図っています。

また、全社的な品質管理のレベルを高めるために、外部の専門家を講師に招いた研修を定期的に行っています。



品質管理研修

化学品安全への取組み

化学物質の取り扱いについて定める種々の法律 (化審法、安衛法など) に従い、製品や取り扱う化学物質についての安全データシート (SDS : Safety Data Sheet) を入手するとともに、このSDSを基に作業員に対して安全に取り扱うための教育を行っています。

また、事業場におけるリスクアセスメントが義務化される法改正への対応として、対象となる一定の有害性のある化学物質とそれを取り扱う作業を洗い出し、リスクの見積もり、リスクレベルに応じた低減措置を計画的に進めています。

これらのリスク評価によって得られた危険性の情報については、SDSの教育とともにラベル表示によって、それに従事する労働者へわかり易く伝えるための仕組みを作っています。

このように法律が定める範囲が拡大されることを受けた対応はもちろん、作業員を保護するための自主的な実施も含めて、容器に入れて提供しているものや、作業場内での化学物質の取扱い作業などについて、対象物質の把握と取扱い作業の状況確認を行っています。



品質管理研修でのグループ討議

さらに、毒劇物の盗難・紛失や悪用される事件、危険ドラッグの蔓延が社会問題となってきています。また、国際的にテロ対策の重要度が高まっていることを踏まえて、盗難・紛失により悪用されるおそれのある化学物質については、ガイドラインを設けこれに従った管理によって、リスクを未然に防止しています。

RC活動トピックス

関西熱化学グループではグループ内の各部署でのRC活動をより活発で、有効な活動とするための支援として、経営トップ参加による様々な取り組みを行っています。

第11回関西熱化学グループRC大会

関西熱化学グループでは、RC活動成果を共有しモチベーションを高める目的から、関西熱化学グループRC大会を毎年開催しています。

第11回RC大会は尼崎地区にて開催され、各社から安全や品質に関する現場視点の改善事例9件の発表に対して、活発な質問や意見交換が行われ充実した大会となりました。



第11回 関西熱化学グループRC大会

第11回RC大会発表事例

活動事例	発表部署
①「コールタール船舶荷役作業の簡素化」	加古川工場 製造部 ガス課
②「No.7,8曝気槽分析計の適正管理」	加古川工場 設備部 保全課
③「作業の安全管理について」	加古川工場安全衛生協力会 宮瀧運輸(株)
④「ハンマーミル粉碎作業の改善活動」	研究開発センター
⑤「ボトル洗浄剤採取及び投入方法の改善」	(株)MCエバテック 尼崎事業所
⑥「安全意識の向上による職場改革」	(株)MCエバテック 加古川事業所
⑦「採水業務の標準化」	(株)MCエバテック 東日本・中部事業所
⑧「タナベゾール輸送トラブル低減」	大阪化成(株)
⑨「ヒヤリハットメモを活用した安全職場の構築」	尼崎ユーティリティサービス(株)

RCパトロール

関西熱化学グループでは、RC推進会議議長（関西熱化学社長）によるRCパトロールを全国安全週間に合わせて実施しています。2016年度は、7月4日から8日にかけて、各拠点におけるRC活動の状況確認と激励を目的に行いました。

MCエバテック尼崎事業所製造部精洗1・2課では、有害な化学物質の入った槽への受け皿や防液堤の設置および濃度管理の導入により環境リスクを低減した取り組み、加古川工場ガス課では、過去の労災・ヒヤリハットの教訓を安全指

示書に織り込み再発防止に繋げた取り組みなどが紹介されました。各部署の好事例については、グループ全体に水平展開し、一体感のあるRC活動に繋がっています。

パトロール後には、小林議長より、激励のメッセージとともに、現場のプロとして自分たちの仕事に誇りを持ち、「自分たちの職場からは絶対に事故や災害を発生させない」という強い気持ちを持って業務することが強調されました。



RCパトロール(MCエバテック)



RCパトロール(加古川工場)

RC監査

関西熱化学グループではグループ内各部門のRC活動実施状況を点検し、活動の改善点を見出すことを目的に、有効性に焦点を絞って、関西熱化学CSR推進部によるRC監査を実施しています。

RC監査の結果については、CSR推進部から各部署に対して、改善点の提言や情報提供を行い、RCパフォーマンス向上に繋がっています。



RC監査(MCエバテック東日本中部)

情報セキュリティへの取組み

関西熱化学グループでは、グループの情報セキュリティに関する取り組み方針を定めて運用し、情報セキュリティの強化を図っています。

情報セキュリティ推進体制

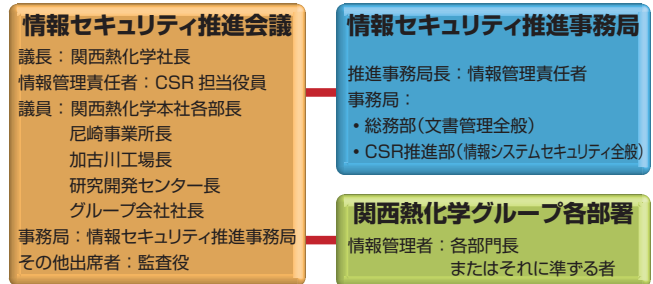
企業が所有する情報には、顧客データ、従業員情報などの「個人情報」や企業独自又は取引先から開示を受けた技術情報・営業情報、取引先と締結した契約書等、厳重な管理を行うべきものが多数あります。このような重要な情報が漏えいした場合、金銭的損失だけでなく、企業の信用、存亡にかかわる重大なリスクに発展する恐れがあるため、そのリスク対応が求められています。

関西熱化学グループでは、従来の情報システムに加え、文書の情報資産も含む内容に改訂された情報セキュリティ基本方針のもと、情報セキュリティ管理規則を制定し、継続的に維持・改善を図っています。

情報セキュリティ推進体制は、CSR担当役員を情報管理責任者、各部・場所長並びにグループ会社社長を議員とする「情報セキュリティ推進会議」を設置し、情報セキュリティに関するグループ全体の活動を統括しています。

また、情報システムのセキュリティに関しては各部署に情報システムセキュリティ推進担当者を任命するとともに「情報システムセキュリティ部会」を定期的で開催し、具体的な推進計画・実行施策に関する討議・調整、指示事項の徹底、施策進捗管理を行い、より確実な情報システムセキュリティの強化を図っています。

情報セキュリティ推進体制



情報セキュリティ教育

関西熱化学グループでは、全従業員を対象に、イントラネットやインターネットを利用したネット研修を実施し、情報セキュリティについての理解度の確認と更なる向上を図っています。

さらに、日常業務で注意すべき事例を解説した「情報セキュリティガイドブック」を全員に配布し教育を実施しました。新たに情報システムを利用する者には、このガイドブックによる教育を実施し、情報セキュリティ事故の防止を図っています。



情報セキュリティ教育

情報システムセキュリティ対策

(1) 標的型攻撃メールへの対応

昨今、標的型攻撃メールによるウイルス感染によって、社内の重要情報や個人情報を抜き取られてしまうトラブルが増えています。

関西熱化学グループ内でも標的型攻撃メールの受信報告が増えており、「いつ」、「誰が」受信してもおかしくない状況になっています。

システム面では、これまでに様々な対策を講じてきましたが、標的型攻撃メールの送信者は、言葉巧みに添付ファイル等を開封させようとしています。被害に遭わないためには標的型攻撃メールを受信した本人の対応が極めて重要になってきています。

そこで、関西熱化学グループでは、ウイルス対策ソフトウェアバージョンとWindowsセキュリティプログラムが最新であることを毎週確認しています。バージョンが古い場合には、そのBN/パソコン利用者に更新作業の実施を依頼し、セキュリティが最新の状態を保つようしています。

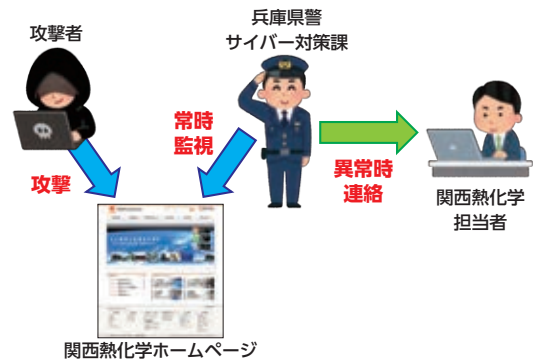


標的型攻撃メールに対する注意事項

(2) ホームページ改ざん対応

近年、標的型攻撃メールだけでなく、ウイルス感染の新たな手口として、外部からホームページを意図的に改ざんし、ウイルスが仕込まれた画像に置き換えるなど巧妙化しています。

正規のサイトであっても、悪意をもった第三者に改ざんされ、ウイルスの感染源になることがあります。関西熱化学のホームページは兵庫県警サイバー対策課に365日24時間監視を行ってもらっています。改ざんやウイルス仕込みなどの痕跡が発見された場合、速やかに担当者へ連絡してもらい、ウイルス感染源とならないように対策を講じています。

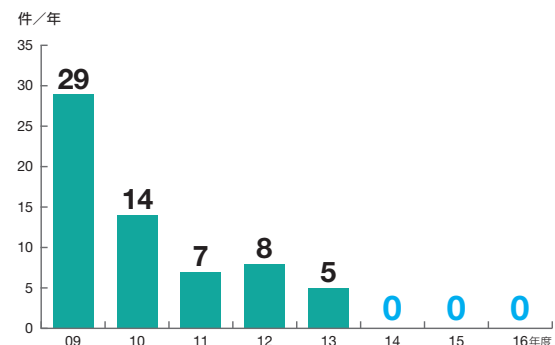


兵庫県警によるホームページ監視

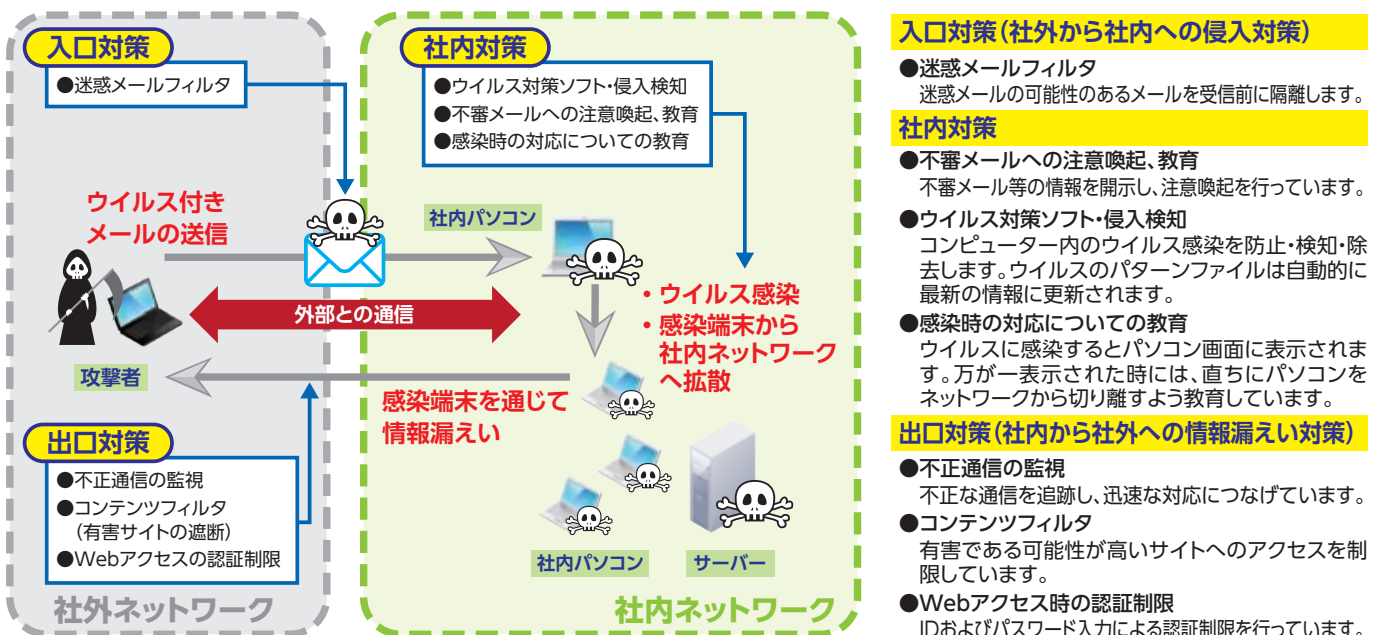
(3) ウィルス侵入対策

関西熱化学グループでは、USBメモリやインターネット利用によってウイルス感染するケースが散見されていました。その対策として、①各場所に共有ファイルサーバー(NASサーバー)導入によるUSBメモリ削減、②インターネット閲覧時のコンテンツフィルタ設定(三菱ケミカルホールディングスグループ標準設定)などのハード対策と①ルール見直しによる社内USBメモリ利用本数削減、②個人所有USBメモリ利用禁止、③業務外インターネット利用禁止等の徹底により、BN/パソコンでのウイルス検出件数が減少し、3年連続で『ゼロ』件を継続しています。

ウイルス検出件数



情報システムセキュリティ対策概要



社会とのコミュニケーション

関西熱化学グループでは、地域の環境を維持するために周辺の清掃活動を定期的に行うほか、地域の子供たちに、ものづくりの楽しさや難しさの体験を通して、身近な科学技術に興味を持ってもらうための「モノづくり体験教室」や「体験学習生の支援」などの活動を行っています。さらに、少年サッカーを通じて心身ともに健全な青少年の育成を目指す活動にも協力しています。

私たちは、今後もさまざまな場面で地域イベントへの参加や地域ボランティア活動への協賛などを通じ、地域社会との共生を図っていきます。

コークス史料館一般公開

コークス史料館は、2006年10月に創業50周年を記念し、開設されました。2015年11月には来館者5000名を達成し、多くの方々へコークスや関西熱化学の技術を伝える貴重な場となっています。また、毎年秋に開催される「神鋼かこがわフェスティバル」時には、一般公開を行っています。館内には、“触って体感 鉄鋼原料”のコーナーがあり、コークスはもちろんのこと、コークス炉に装入する原料炭、銑鉄の原料である鉄鉱石や焼結鉱などを展示しており、鉄づくりに興味を持っていただきました。



神鋼フェスティバルでのコークス史料館一般公開

モノづくり体験教室

日本の未来を担っていく子供たちに、ものづくりの楽しさと素晴らしさを体感してもらうことを目的として、関西熱化学では小学校高学年の生徒を対象にモノづくり体験教室を2006年より毎年継続して開催しています。尼崎市立明城小学校および加古川市立別府西小学校で「ラインシェード作り」に挑戦しました。

風船にタコ糸を巻きつける簡単な構造でしたが、子供たちは個性を表現するために創意工夫する中で、ものづくりに真剣に取り組み、その楽しさを体験しました。



モノづくり体験教室

体験学習生の支援

1998年から兵庫県下全ての公立中学校の2年生が職業を体験する「トライやるウィーク」が実施されており、加古川工場およびMCエバテック加古川事業所では継続的に「トライやるウィーク」を支援しています。2016年度は別府中学校の生徒3名が、動力伝達装置や安全作業について学んだり、石炭を燃焼させた際に発生するガスの成分分析の体験をしました。



体験学習生の支援

市民スポーツ振興への賛助

加古川市で開催される市後援の加古川マラソン、市民レガッタ大会やツーデーマーチの運営を円滑に行うため、体育班が中心になり、会場設営、交通整理、レガッタ大会の審判などとして参加協力しています。MCエバテックアクアクラ六甲事業部では西宮市小学生サッカー大会（アクアクラ六甲カップ）へ2010年度より特別協賛しており、全力でプレーする子供たちを応援しています。



西宮市小学生サッカー大会(アクアクラ六甲カップ)

ボランティア清掃

関西熱化学グループの各場所では周辺地域や通勤道路などの清掃活動を行っています。

さまざまな部署の方が一体となって、地域の環境美化に貢献しています。また、この清掃が部署間の交流の場にもなっています。



ボランティア清掃

社会貢献者表彰制度

関西熱化学では社外でのスポーツ教室の指導やボランティア活動をはじめとする社会貢献活動において、顕著な功績を修めた方に対する表彰制度があり、社会貢献を推進する従業員を応援しています。

2016年度は、ボート協会の委員として各種大会の運営や青少年への指導などを通じ、永年にわたりボート競技の普及に貢献されてきた2名を表彰しました。



社会貢献表彰制度

グループ会社のRC活動への取り組み

グループ会社の環境関連技術とRC活動トピックス

株式会社MCエバテック

- 本 社 兵庫県尼崎市潮江1丁目2番6号
TEL 06-4300-5442(代表)
- 代 表 者 取締役社長 小山 敏之(こやま としゆき)
- 設 立 1979年(昭和54年)1月
- 資 本 金 2億8000万円

環境関連技術

【炭素材事業】

- キャパインタ用活性炭製造技術(蓄電デバイス用部材供給による省エネ貢献)
- 使用済活性炭の再生利用(活性炭再生技術)

【精密洗浄事業】

- 半導体・フラットパネルディスプレイ関連装置の精密洗浄
(装置部品の再生利用技術・除膜剥離物の再資源化)

【分析事業】

- 環境分析技術:
大気分析、水分析、騒音測定、振動測定、および作業環境測定等

RC活動トピックス

●フォークリフト作業の安全確保(尼崎事業所)

製造部アクア澱粉課では、多くの物資の搬出入を行っています。原料フレコンの入荷から澱粉製品やアクアクララ六甲のボトル出荷まで、部署内を複数のフォークリフトが、日々走行しています。従来より、フォークリフトの走行ルールを定めたり表示を実施したりして災害の未然防止に努めていました。更なる対策としてフォークリフトにLEDライトを搭載し、周囲の作業者からの視認性を向上する事により、フォークリフトと作業者の接触事故のリスクを低減させました(写真中の赤い線がLEDライトによる光跡)。



澱粉チーム



アクアクララ
六甲チーム

- 事業内容 炭素材事業、精密洗浄事業、分析事業、
総合サービス事業
(不動産業、飲食業、ソフトウェア開発、
澱粉詰め替え)
アクアクララ六甲事業

- VOC分析技術:
住空間(居室内、車室内など)の揮発性有機化合物分析
- 環境調査・コンサル:
環境アセスメント対応、土壌分析等

【総合サービス事業】

- 不動産事業:遊休地を利用した太陽光発電
- ソフトウェア事業:各種自動化システム等
- 澱粉詰め替え事業:澱粉詰め替えおよび保管時のフードディフェンス

【アクアクララ六甲事業】

- 宅配水のリターナブルボトル

●フレコン袋吊上げ作業での安全確保(加古川事業所)

原料が充填されたフレコン袋の重量は数百kgあり、吊上げた時に吊り紐が切れたり袋が破袋すると災害に繋がる危険性があります。2015年にフレコン袋が破袋し、原料が飛散するヒヤリハットが発生しました。対策として原料投入ホッパーにフレコン袋を置く架台を設け、安全な状態で作業できるようにしました。対象箇所は13カ所あり、2016年度にすべての対応が完了しました。本対策も含め、作業時の安全を確保する取り組みを進めています。

架台の設置

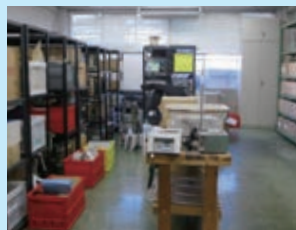


作業用に側面を
開閉式に加工

【架台設置(13カ所)の一例】特殊キルンホッパー

●VOC技術グループ移転に伴う5S活動(東日本・中部事業所)

つくば分析センター・VOC技術Gにおいては敷地内での大規模な移転を実施しました。移転後の業務のスムーズな立ち上げを目指し、小集団活動として5Sに取り組みました。安全や動線を配慮した設備配置を行い、活動の振り返りアンケートも実施することにより5Sの重要性を再認識しました。



大阪化成株式会社

- 本 社 大阪府大阪市西淀川区中島2丁目6番11号
TEL 06-6474-3621(代表)
- 代 表 者 取締役社長 石川 邦夫 (いしかわ くにお)
- 設 立 1946年(昭和21年)4月
- 資 本 金 6000万円
- 事業内容 炭素製品事業、生活環境製品事業、特薬事業、
生物検査・評価試験受託業務

環境関連技術

- 薬用ハンドソープ用途の殺菌剤の製造 (抗菌剤製造技術)
- 専用抗菌剤の製造 (抗菌剤製造技術)
- 動物忌避剤の製造 (忌避剤製造技術)

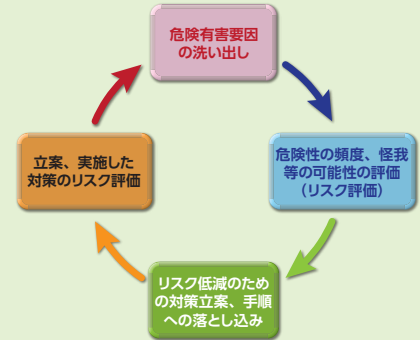
RC活動トピックス

●RCの日

大阪化成では毎月最終週の金曜日を『RCの日』と定めています。RCの日の午後は生産活動を止めて、各職場の3S活動や従業員を一堂に集めた全員教育、各部署毎の教育・訓練の開催などを行ない、RC意識の維持・向上に努めています。

●リスクアセスメント活動

日々の生産活動では、危険、有害要因の洗い出しを行ない、危険性の程度、怪我等の可能性等のリスクを評価しています。その後、リスクを低減させるための対策を立案して作業手順等へ落とし込み、立案した対策について再度リスク評価を行なっています。こうすることで、より安全で安心して働ける職場づくりに努めています。



尼崎ユーティリティサービス株式会社

- 本 社 兵庫県尼崎市大浜町2丁目30番地
TEL 06-6416-0164(代表)
- 代 表 者 取締役社長 池田 道弘 (いけだ みちひろ)
- 設 立 1993年(平成5年)10月
- 資 本 金 1億円
- 事業内容 電気・蒸気供給事業

環境関連技術

- 高効率ガスタービンコージェネレーション発電 (発電設備運転技術)
- 低圧蒸気活用による「スチームスター」による発電 (発電設備運転技術)

RC活動トピックス

●ISO9001(2015年版)認証取得

2016年4月に認証機関である日本化学キューエイ(株)と移行審査に向けたスケジュール確認を行い、2017年3月16日、17日の両日、2015年版への移行審査を受けました。その結果、“適合”の判定を頂き認証取得致しました。(認証取得日2017年5月8日)



●化学物質リスクアセスメント評価

当社には、該当物質が8種類13項目の作業があり、常時作業はないが、調合作業において隣接する調合タンクで薬剤を入れ間違えると有害ガスが発生し、暴露する危険性があります。対策として、タンク天蓋に注意喚起の表示と天蓋を容器の色と同色にした事で、誤調合の防止が図れ安全性が向上しました。



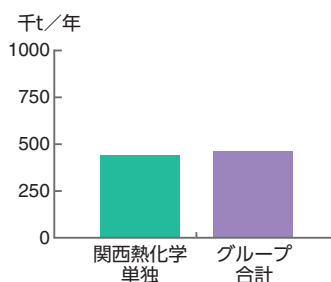
改善前



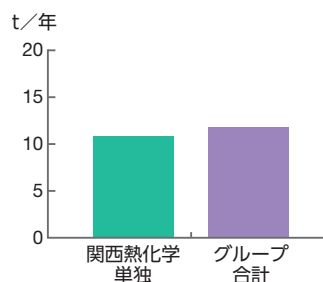
改善後

グループの主要な環境・安全パフォーマンス指標比較

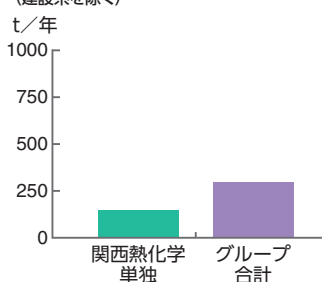
CO2排出量(試算値)



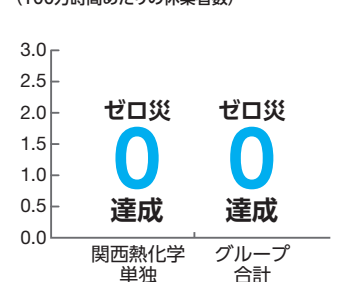
PRTR法対象物質排出量



産業廃棄物最終埋立処分量 (建設系を除く)



休業度数率 (100万時間あたりの休業者数)





お問い合わせ先

関西熱化学株式会社 RC推進会議事務局

TEL : 06-4300-5366 (CSR推進部)

FAX : 06-6491-9681



この印刷物は環境への配慮のため、責任ある森林からの原料を含む「FSC®認証紙」、および植物油インキを使用しています。